

# NMO OfficeLetter

## 京都でも学生アルバイトが集まらない！

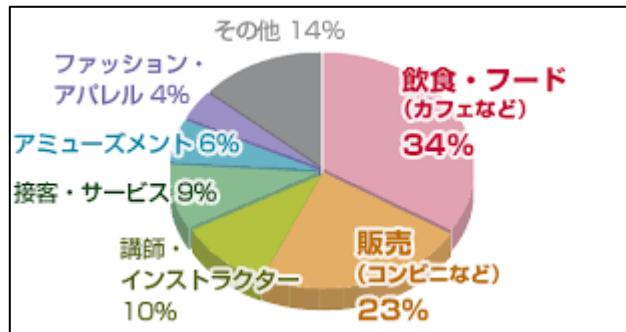
全国でも市内に学生が圧倒的に多いこの京都市でも、昨今学生アルバイトを募集しても集まらなると悲鳴が上がっている。従来から学生アルバイトが多いコンビニや飲食店では、あまりに集まりが悪いので、企業側が大学に向いて「アルバイト説明会」まで開催する事態になっている。少子化の傾向がさらに顕著になり、加えて学業の都合で試験期間中などの勤務ができない。また、最近流行の「隙間バイト」というスポット働き方というのが浸透してきたという背景もある。

＜解説＞10月伏見区の龍谷大学では、学習塾やスーパーなど9社の担当者が就職説明会ならぬ「アルバイト説明会」に参加した。仕事の内容、勤務時間、やりがいなどを懸命にPRした。6月には京都産業大学でも同様の説明会を開いた。わざわざ担当者が大学に向いて説明会を開催するのは、アルバイトの採用が難しくなっているから。特に、スーパー、居酒屋など多く



の学生アルバイトを雇用する業界での人手不足が深刻だ。より楽な業界に流れることも多く、週に1回しか勤務できないという学生も多い。以前と学生を取り巻く環境が大きく変化している。IT化の進行で出欠や提出物の管理が厳しくなり、授業への出席回数が増え、課題も難しくなっている。テスト期間はバイト先を休むことも多く、連続した勤務シフトに入るのが難しい。週に1回や2回でもOKとか、テスト期間中は休めます、といった内容にすると集まりやすいという。最近流行のすき間時間バイトというシステムに登録する人も3割いるという。学生の環境が以前

に比較して大きく変化している。空き時間を有効に活用し、タイパ(タイムパフォーマンス)を重視する学生が増えてきた。時給もどんどん上がっていて、最も高い学習塾が全体を押し上げている。週に5日も働くモーレッツ学生は激減し、多い方でも週に3日。シフトの調整、テスト期間中の休みなど企業側が柔軟に応じなければ応募する学生はどんどん減ると思われる。京都市内は大学が多く、市民人口に対する学生の割合は全国でトップ。以前は、石を投



げれば学生に当たると言われていた京都だが、昨今の学生を取り巻く環境はアルバイトにも厳しい影響を与えている。103万円のカベが取り払われても、状況は改善される傾向は見えない。少子化の傾向は今後さらに進むと思われる。従来、安価で便利な学生アルバイトに依存していた業界は、今後大きな転機を迎えるはずだ。人手はいつでも学生で調達できると思っていた企業は、厳しい環境にさらされる。学生アルバイトの調達も非常に厳しい時代に突入した。